

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

#### ○ オンラインによる短期留学プログラム

8月17日～18日、米国・ウィリアム・アンド・メアリー大学（The College of William and Mary）の夏季講座に、のべ60名の本学学生が参加した。

2023年2月15日～2月23日、慶應義塾大学短期日本学講座（KJSP：Keio Short-Term Japanese Studies Program）を開催。本学と協定大学の学生計20名が参加した。

2023年2月28日～3月1日、豪州・シドニー大学（The University of Sydney）春季講座で、本学学生50名がワークショップに参加した。

APRU: Association of Pacific Rim Universities（環太平洋大学協会）の加盟大学間で行うオンラインの学生交換プログラム、APRU Virtual Student Exchange (VSE) Programに参加した。VSEによる受入学生は、科目履修生として本学での単位取得が可能である。

受入数は、2021年度の19名から30名に増えた。 <https://vse.apru.org/>



#### ○ 国際学生寮の開寮

2023年2月、湘南藤沢キャンパスに、慶應義塾で唯一のオンキャンパス国際学生寮「H（イータ）ヴィレッジ」が竣工。定員300名の日本人学生と留学生の混住型の学生寮で、「暮らしながら学ぶ、学びながら暮らす」をコンセプトとしている。 <https://h-village.sfc.keio.ac.jp/>



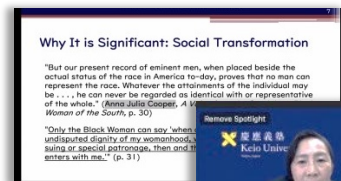
### ガバナンス改革関連

#### ○ Asia Pacific Women in Leadership (APWiL)

APWiL メンタリング・プログラムの一環として、2023年3月8日の世界女性デーに、「intersectionality」に関するオンラインのワークショップをメルボルン大学と共に主催した。

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2023/4/13/27-137334/>

また、本学では独自のメンタリング・プログラム導入を目指し、2022年度はパイロット版を実施。全38名の女性教員が参加した。



#### ○ 戦略的パートナーシップネットワーク構築プロジェクト：グッドプラクティスの共有

「大学の国際化促進フォーラム」事業の「戦略的パートナーシップ」のネットワーク構築プロジェクト（幹事：東京大学）に引き続き参加し、グッドプラクティスや課題を共有した。

第5回戦略的パートナーシップ連携大学会議（2022年5月24日）では「戦略的パートナーシップの構築：もう一つのアプローチ」、第2回公開シンポジウム“‘How to deepen the partnership in various aspects’”（2023年3月3日）では、“The Current State of Keio University’s Strategic Partnerships”と題して、U7+アライアンスやAPRUでの取組みを報告した。 <https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400184826.pdf>



#### ○ グローバル・アドバイザリー・カウンシル Global Advisory Council (GAC)

GACメンバーである以下の3大学の学長と本学塾長が意見交換を行なった。

2022年7月、2023年1月 シンガポール国立大学 Tan Eng Chye学長

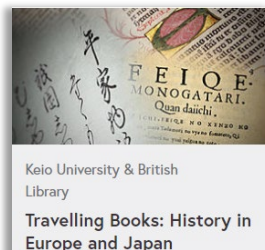
2022年10月 延世大学 Seoung Hwan Suh学長

2023年3月 オーストラリア国立大学 Brian Schmidt学長

### 教育改革関連

#### ○ FutureLearn オンライン教育プラットフォーム

2022年度は、新規2コースを含む12コースを開講した。



#### ○ GICセンター（Center for Global Interdisciplinary Courses）

GICは、科学、環境、音楽、武士道、貧困、ビジネスなど様々な分野の授業科目を英語またはその他の外国語で提供するプログラムで、学生は所属学部によらず履修できる。卒業時までには科目の取得合計が40単位以上となった学生には、修了証が授与される。この修了認定者は昨年を上回る55名となり、2022年度までの累計で237名となった。

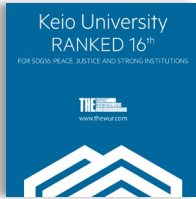


## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○ THE 世界大学インパクトランキング (THE Impact Rankings 2022) 6つのゴールで世界100位以内

2019年に始まった、国際連合が提唱するSDGsの達成度により社会に対する大学の貢献度（インパクト）を測定することを目的としたランキング。世界106の国・地域の1,406機関のうち、本学の総合ランキングは、世界101-200位、「Goal 16 平和と公正をすべての人に」では16位となった。

SDGsの達成は、本学の事業構想テーマ「実学（サイエンス）により地球社会の持続可能性を高める」実現とも密接に関わっている。本学は、2020年度から国連大学SDG大学連携プラットフォームに参加しているほか、2021年度からは、SDGsの推進を大学の中期計画に明示した。2022年度は、その活動を内外により広く発信すべく、関連ウェブサイトをさらに充実させた。 <https://www.global-sdgs.keio.ac.jp/en/sdgs/>



### ○ クロス・アポイントメントによる海外副指導教授制度

コロナ禍を経て、海外副指導教授の来日が再開し、2021年度の実績51名を大幅に上回る、延べ142名を任用した。指導を受けた学生数は、任用とほぼ同数の約140名にのぼった。2014年の制度開始からの任用者累計は653名となった。

## ■ 国際的評価の向上につながる取組

### ○ 研究大学としてのアドボカシー活動

2023年3月16日、17日に第5回U7+アライアンス学長会議を主催し、世界16カ国・28大学から、オンラインを含め75名を超える学長・副学長等が参加。G7首脳に対し、世界40以上の加盟大学とともに、『東京声明』により、平和と安全保障のための教育投資の優先を訴えた。 <https://www.keio.ac.jp/ja/news/2023/3/24/27-136694/>



2022年5月20日、ライデン大学で開催されたLERU総会の中で実施された研究大学グローバルカウンシルにRU11（学術研究懇談会）の国際担当として出席し、米国、カナダ、欧州、英国、ドイツ、豪州などの研究大学コンソーシアムと共に、RU11として、研究大学の価値を再確認し保証する『Leiden Principles（ライデン原則）』に署名した。 <https://www.keio.ac.jp/ja/news/2022/6/8/27-124621/>



慶應義塾大学グローバルサーチインスティテュート（KGRI）では、「長寿」「安全」「創造」の各クラスターでイベントやセミナーを多数開催した。

### ○ 日本留学フェア “Experience Japan Exhibition 2022 Online”

2022年11月19日、日本留学フェア“Experience Japan Exhibition 2022 Online”を主催した。全国32の大学・団体が出展し、各大学の日本留学プログラムや日本留学体験談・各国の奨学金紹介などのセミナーを提供した。アジアやヨーロッパを中心にのべ1,010名の参加があった。 <https://www.keio.ac.jp/ja/news/2022/12/1/27-133741/>



### ○ 国際広報

月刊e-ニュースレター「The Penmark」（2023年4月現在 登録者数6,149名）  
Facebook（2023年4月現在 フォロワー数約2.6万人）  
Instagram（2023年4月現在 フォロワー数約2.0万人）

## ■ 自由記述欄

### ○ Indonesian International Student Mobility Awards (IISMA)

2023年2月、本学はインドネシア政府のIISMA (Indonesian International Student Mobility Awards) のホスト大学に選出された。

IISMAは、インドネシアの学生が世界のホスト大学に留学するための政府奨学金で、ホスト大学は、公募・選考を経て選出される。2022年度のホスト大学は世界26カ国110大学。選ばれたインドネシアの奨学生は1,500名以上。

<https://iisma.mbkmb.dev/>

2022年4月にインドネシア大使館よりIISMAの紹介を受け、9月にIISMA説明会に参加した。11月には本学主催のExperience Japan Exhibition (EJE) にて、日本留学を目指すインドネシア人学生向けにIISMAのセッションを実施した。

2023年のIISMAのホスト大学のうち、最大の838名が本学を第一または第二志望とした。

<https://studyinindonesia.kemdikbud.go.id/web/post/read/keio-university-being-the-most-chosen-host-university-at-iisma-2023>

